



豊田市の水辺愛護会
 発行：豊田市矢作川研究所
 471-0025 豊田市西町2-19
 豊田市職員会館1階
 TEL：0565-34-6860 担当：吉橋
 2017年1月

藤沢水神ロード愛護会

お邪魔しました！活動日訪問記 2016年9月25日(日)

県道11号線を車で走っていると、
 阿摺^{あすり}ダムの少し下流に気持ちの良い川辺があるのに気づきます。

ケヤキなどの大木がすっきりと立ち、ヤブツバキの木もつややかな葉を見せており、その向こうに、矢作川の流れが見えます。秋にはヒガンバナが赤い花を咲かせ、キノコが顔を覗かせたりもしています。

ここは「藤沢水神ロード愛護会」の活動地です。「ゴールデンウィーク明けくらいに来ると、どこの世界に来ちゃったか、ちゅうぐらいきれいだよ。新緑の木漏れ日が素晴らしい」。中根学会長は語ります。

9月の活動日にお邪魔させていただきました。この日は秋の交通安全

運動（立哨）、水辺愛護会活動、自治区の環境美化の日です。

会の皆さんはまずは県道で立哨を済ませ、旧こども園に移動しました。老人会の方々も集まってきて、今日の活動は30人ほどのようです。

中根会長からの朝のご挨拶です。「草刈りはヒガンバナは残してください」「老人クラブの人は水神口





＜藤沢水神ロード愛護会＞
結成…2004（平成16）年6月
会長…中根学氏 会員50人
（2015（平成27）年10月時点）
活動日…毎月第3日曜
活動地…藤沢地域～富田地域
の一部まで
活動地面積：約10,500㎡

ロードのごみ拾いをお願いします。」
集合写真撮影後、車で移動します。

8時20分ごろ。愛護会の会員は
広場のように開けている川辺に到
着。前掛けをかけて、頭に帽子を被
ったりタオルを巻いたりの出で立
ちで活動を開始しました。

スピードを出した車や自転車が
通り過ぎるすぐ横で、刈り払い機の
エンジン音が響きます。

ほとんどの方が刈り払い機を使
って草刈りをするなか、道路際のご
みを拾っている女性がいます。ごみ
袋を見せていただくと弁当箱、空き
缶、お酒やビール缶もありました。
きっと「ごみを捨てるな」の看板も
目に入らないのでしょう。

数人が敷地の中ほどにある、大人
の背丈よりも高いやぶに取り組ん
でいます。刈り払い機を斜めにあげ
て短く振り、草木をいったん上部で
切ってから根元の方を伐るという
こともしています。しばらくして全

て伐り払われました。活動地を遮
っていたやぶがなくなり、一人の会員
が「何年かぶり、つながったね」
と話しかけてくださいました。それ
にしても大変な作業です。「一回で
刃がペアになる」。「石が多いよ。だ
いぶ拾ったけど」と教えて下さい
ました。

草刈りが一段落し、道路際に落ち
た葉を機械で吹き飛ばしてこの場
所での活動は終了です。みなさん
「環境美化」のそれぞれの持ち場
に向かって車で移動し、川辺は静けさ
を取り戻りました。

そして一時間半後。環境美化の持
ち場で掃除を終えたみなさんが朝
の集合場所付近に集まってきまし
た。ジュースが配られ、日陰で休憩
しながら「蛇がいたよ」「マムシじ
ゃない?」「縞もなかったよ」など
としばし談笑。

全員が揃ったのを確認して中根
会長から終わりのご挨拶です。この

日は夕方に弁天さんのお祭りがあ
ること、秋祭りで奉納される「棒の
手」の練習がそろそろ始まることな
どが告知され、会は閉じられました。

中根会長にお話を伺いました
元々「水神ロード」の活動をしよ
うとおもったのは、不法投棄がき
っかけだそうです。夜、人家が近く
にない川辺で不法投棄がしばしば行
われていました。そこで「水神ロ
ード」として一部に花壇を作り美しく
してそれを防ごうということだ
けだそう。ただ、今でも不法投
棄をする人はいるそうで「いたちご
っこ。やってもやってもしょうがな
い」といいます。

川は昔からごみやがらくたが捨
てられる場所でもあった、とあちこ
ちで聞きます。しかし、かつては地
区の人々が捨てたもので、自然に帰
る素材のものばかりだったではな
いでしょうか。今は地区外の人々が



人の背丈より高いやぶがあった。



やぶが伐られて見通しがよくなった。



持ち込む、自然に帰らないものが多いと思われま。道路沿いの空缶などのごみと共に頭の痛い問題です。

そして竹やぶの整備は「川がある程度見えるように」することを目的に始めたそうです。道路の反対側はうっそうとした竹やぶで全く見通しがききませんが、今の川辺も、活動前はまさにこのような状態だったといいます。

竹やぶを伐ったらヤブツバキがたくさん現れ、ヒガンバナも咲くようになりました。

また、このあたりは冬に雪が降ると竹が道路を覆って一日中凍結し、スリップ事故が良く起きていたそうですがそれも減ったそうです。

一会長さんとしてどんな思いで愛護会活動をしておられますか？

「みんなにえらい負担かけちゃうもんね。自治区のことやお寺さんの行事もあるし。自由になる時間が少

ないからねえ。」活動が負担になることを気にしておられます。確かに「10月いっぱい日曜の休みがない(笑)」とおしゃべりのなかで語っていた会員がいました。この時期は地区の行事が続き、時間をさかれることが多いそうです。

水辺愛護会は成り立ちから自治区と深いかわりがあり、同じ課題を他の愛護会も抱えています。負担軽減のための工夫が求められますが、この日のように、交通安全運動と環境美化と愛護会活動を重ねて一日にしたのは会員を思っの配慮だと感じました。

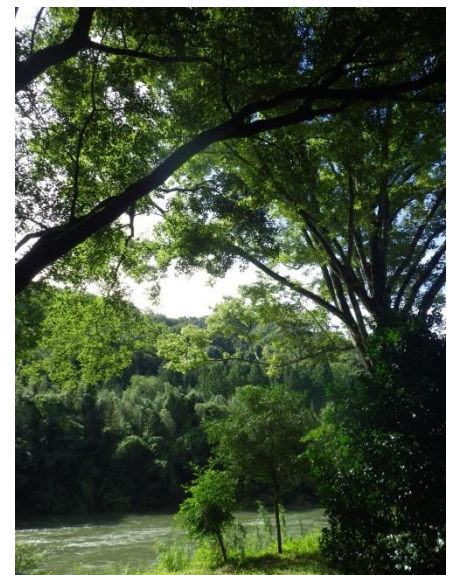
矢作川に面するこの地区は矢作川と共にありました。

阿摺ダムのすぐ下流はかつて砂浜が広く、会員のみなさんが子どもの頃はそこで遊んだそうです。また、この地区は岩が多く、矢作川で筏流

しが行われていたころは難所として知られていました。今でも毎年夏に川の安全を祈願する「舟万灯祭り」が行われています。地区内にあるきなび猿投神社から水神様にお出ましいたいて、小中学生を含む住民が「水神囃子」の演奏を行います。

川の眺めを遮っていた竹やぶが愛護会活動によって伐られ、眺めが維持され続けていることは、川に直接の「用」がない現代生活のなかで川とのつながりを生み出してくれる貴重な働きであると思います。

「どこの世界に来ちゃったか、っちゅうぐらいきれい」な風景を守っている皆さんに尊敬の念を強くして帰途につきました。(吉橋久美子)

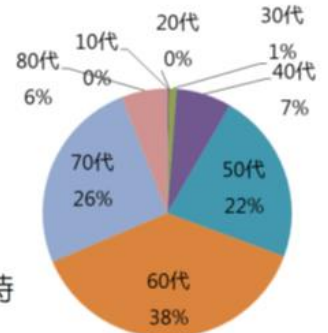


道路を挟んだ反対側(左)。以前は両側が左のような状況だったが、今、活動地ではヤブツバキも育つ(中) 大木と川の風景(右)

豊田市の水辺愛護会について

自治区の有志で組織（原則1自治区1団体）。市に指定された範囲内において活動を行う。

- 19団体、656人。（毎年登録）
- 一団体12人～113人（平均34.5人）
- 男性86%、女性14%（以上、2015年10月現在）
- 活動延べ人数：4,570人/年（2014年度・会員656人）



活動頻度：月1～2回程度 土曜日又は日曜日の午前中

活動内容：河畔の竹木の間伐、草刈り、ゴミひろい、適切な維持管理についての知識向上積極的な活動人員の確保、など

面積（上流5団体除く14団体）：200,200㎡（平均14,300㎡）



活動の成果

- 「ながめ」が良くなった
（川面を見られるようになった。河畔林が見通せるようになった。対岸へのながめ、対岸からのながめがよくなった。）
- 川までたどり着けるようになった
- 人と人とのつながりが昔のように強まった
- ふるさとに自信が持てるようになった 等

活動の課題

- 会の継続性への不安（高齢化と人手不足）
- 目標・将来像・方向性を考える場が少ない
- 作業のマンネリ化で「やる気のもと」がない
- 河畔林の恵みという意味の「見返り」がない
- 愛護活動は生物の生息環境から見て適正か
- 地域住民・市民の関心が低い 等



発行：豊田市矢作川研究所
〒471-0025
豊田市西町2-19
豊田市職員会館1階
電話 0565-34-6860
Fax 0565-34-6028
(担当：吉橋久美子)